

1 えべつ未来市民会議の提言にあたって

えべつ未来市民会議は、平成26年度からの新しい江別市総合計画の策定にあたり、市民と有識者が一同に会して、江別市がめざしていく将来像などについて議論し、総合計画の柱となるべき戦略や政策に関する提言を行うために、平成24年2月1日にスタートしました。

その後、全体での会議のほかにも高齢化・市民活動、暮らし・定住、環境・文化、安全・安心、まちづくり、地域産業という6つの部会で具体的な意見を積み重ねて、10月30日の第10回会議をもって、市民会議としての提言をまとめました。

この市民会議は、38名の市民委員と6名の有識者委員で発足しましたが、その市民委員の選任にあたっては、より幅広い市民参加を図るとともに、年齢構成や男女の割合の偏りを少なくするため、江別市では初めて無作為抽出により行われたことにより、市民委員のそれぞれの世代を背景とした説得力のある具体的な問題提起や意見が多岐にわたって提案され、密度の高い議論をすることができました。会議は全体会議が5回、6つの部会の会議が合計29回、延べ34回に及ぶ会議の結果として提言をまとめたことは、すべての部会で共通の課題として意見が出された様々な形の「協働」を考えるにあたって、この会議の進め方そのものが「協働」の大切なポイントになっているのではないのでしょうか。

市民会議は決して順風満帆に進んだわけではなく、何度も有識者委員の部会長が集まり、お互いに課題を共有しながら、市民会議の進め方を協議し、さらに全体会議での市民委員の意見も取り入れて軌道修正を行い、一つ一つのプロセスをクリアして、ようやく市民委員みなさんの意見が提言としてまとまりました。こうした自分たちでプロセスを考えることそのものが、すべての委員のみなさんが今後「協働」で取り組む上での大きな財産になっていると考えています。しかし、この協働の取り組みは、江別市ではまだスタートラインに立ったばかりです。これから市民全体で協働の取り組みを積み重ねることで、江別市の未来を市民自らの手で、よりよいものにつくりあげていかなければなりません。

江別市の将来のまちづくりについて真剣に議論をしてきた市民委員のみなさん、そして部会の議論を進め、意見を調整し、部会としての提言をまとめる調整力を発揮された部会長のみなさん、長期間にわたり本当にありがとうございました。心より感謝いたします。

私たちの提言が新しい総合計画に反映されるためには、具体的な提言一つ一つについて、その実現の可能性を予算面や人的資源などの面からしっかりと検討することが必要であると認識しています。さらに一つ一つを検討し「協働」で取り組む上でのマンパワーなどの仕組みづくりも盛り込み、「えべつ未来づくり」のための先進的内容として胸を張って地方から全国に発信できるものとなっています。私たち市民会議の委員が9か月、34回という時間と熱意を注いでまとめた「本気の提言」が、新しい総合計画に確実に反映されることを心より願っています。

平成24年10月30日

えべつ未来市民会議 議長 佐藤 克之